allcinema

夏の嵐（1954）

LIVIA［米］
SENSO
WANTON CONTESSA［再］

メディア　映画
ジャンル　ドラマ　戦争
製作国　イタリア
色彩　Color
時間　119分
初公開日　1955/10/08
公開情報　イタリフィルム＝ＮＣＣ
リバイバル　1982/12［ヘラルド］

【解説】

　だって原題が「官能」（１９世紀末のカミッロ・ボイトの短編小説が原作）だもの、もう、その通り。オペラ座の舞台から始まる、この絢爛たる恋の絵巻は、後期のヴィスコンティの耽美趣味が既に顔をだしながらも、やはりネオ・レオリズモで鍛えた直截な描写力が活きていて、全くヴァイタルなメロドラマになっている。

　１８６６年、オーストリア軍占領下のヴェネツィアで観劇中の軍の将校と抗戦運動の指導者の侯爵との間に決闘騒ぎが起り、それを諫めに入った伯爵夫人は、従弟である侯爵を流刑にされながらも、その美貌の将校に狂おしく恋をする。再び戦争が勃発し、密入国した侯爵は従姉のもとを訪ね軍資金の保管を依頼するが、夫人はその金を、将校に軍籍離脱の賄賂のためにと渡してしまう。祖国は敗れ、ヴェロナにいる彼の元に馬車を急がせた夫人の見たものは……。

　薄汚れた姿で恋人を探して兵舎を訪ね回る夫人＝Ａ・ヴァリの激情は、トリュフォーの「アデルの恋の物語」のＩ・アジャーニの比ではない。Ｇ・Ｒ・アルドと彼の死で途中交代したＲ・クラスカーのキャメラのゴージャスさ、全篇に響き渡るブルックナーの第七番。これぞイタリア映画というボリュームで観る者を圧倒する、ヴィスコンティの最高傑作。

【クレジット】

監督	ルキノ・ヴィスコンティ	Luchino Visconti	
製作	ドメニコ・フォルジェス・ダヴァンザーティ	Domenico Forges Davanzati	
原作	カミッロ・ボイト	Camillo Boito	
脚本	スーゾ・チェッキ・ダミーコ	Suso Cecchi d'Amico	
	ルキノ・ヴィスコンティ	Luchino Visconti	
撮影	Ｇ・Ｒ・アルド	G. R. Aldo	
	ロバート・クラスカー	Robert Krasker	
編集	マリオ・セランドレイ	Mario Serandrei	
出演	アリダ・ヴァリ	Alida Valli	リヴィア・セルピエーリ伯爵夫人
	ファーリー・グレンジャー	Farley Granger	フランツ・マーラー中尉
	マッシモ・ジロッティ	Massimo Girotti	ロベルト・ウッソーニ侯爵
	ハインツ・モーグ	Heinz Moog	セルピエーリ伯爵
	リナ・モレリ	Rina Morelli	ラウラ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

クリスチャン・マルカン	Christian Marquand	ボヘミア士官
セルジオ・ファントーニ	Sergio Fantoni	ルカ
マルチェラ・マリアーニ	Marcella Mariani	クララ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.